

第2回 北上市立更木小学校・二子小学校 統合検討委員会 会議要旨

日時：2026年6月2日（火） 18:30～20:15

参加者（敬称略）： 及川和志、堀川勇、八重樫龍平、澤田安弘、伊藤修司、石川学、澤田真、八重樫雅弘、八重樫佑介、川邊泰雄、小原喜芳、斎藤芳里、浅野博道、千田恵一、藤村隆広、澤田千恵子、川村恵壽、平野直志、北上市教育委員会教育部総務課長 嶽間澤健一郎、学校教育課長 多田義孝、総務課 岩渕麻美、高橋典男

欠席者： 小原健史

会議の概要：

アイスブレイクと委員長挨拶に続き、第1回委員会の議事録を報告した。その後、事務局から更木小学校および二子小学校の各地域協議会からの最終報告内容を説明し、質疑応答が行われた。

次に、今後の委員会で協議すべき事項（通学、学童保育、施設改修、児童交流等）の優先順位付けについて議論。特に、通学の安全性と学童保育の受け入れ体制が最優先課題として強調され、関連事項を協議事項とすることが決定した。また、委員から関係各課（子育て支援課等）や統合経験のある教員を委員会に招いて直接意見交換を行うよう要望があった。また、事務局から保護者・地域住民への情報提供として「統合委員会だより」を発行することが示された。最後に、次回以降の委員会日程が確認された。

次第2：委員長挨拶

- 委員長挨拶（澤田委員長）：
 - 本日の会議の目的として、前回の振り返りを行い、第3回以降に本格化する協議内容の整理を行うことが示された。
 - 「3回目以降の会議のベースとなる話し合いになるかと思います」と述べ、本日の議論の重要性を強調した。
 - 会議時間は第1回同様、1時間半前後（午後8時頃まで）を目安とすることが確認された。
- 定足数の確認（事務局）：
 - 委員19名中17名の出席が報告された。（開始後1名加わり、18名で会議を進行）

- 規約に基づき、半数以上の出席により会議が成立していることが宣言された。

次第 3：報告（1）前回委員会の議事内容

事前に配布された資料 1（第 1 回会議議事録）に基づき、前回の委員会の内容を報告した。

- 主な報告内容：
 - 資料の訂正：議事録に記載された川邊泰雄氏の氏名の漢字に誤りがあったとして謝罪し、訂正した。
 - 趣旨説明の振り返り：
 - 教育委員会の方針として「適正配置基本計画」を策定した経緯を説明。
 - 更木小学校地域協議会から「同じ中学校区である二子小学校との統合を第一に検討したい」との結論が出された経緯を説明。
 - 事務局の統合方針案として「二子小学校の校舎を使用し、令和 9 年 4 月を統合目標時期とする」ことを提示したと報告。この案は、保護者からの「できるだけ早い時期に」という意見も踏まえてのもの。
 - 委員会運営：
 - 委員長に澤田安弘氏、副委員長に及川和志氏が選出されたことを確認。
 - 代理出席や議決方法など、委員会の規約や運営ルールについて質疑応答があったことを報告。
 - 統合方針に関する質疑：
 - 「更木小学校の児童が二子小学校へ転校するイメージか」という質問に対し、事務局が「これが令和 9 年 4 月の統合を実現するための最短の方法である」と回答したことを再確認した。
 - その他、委員から出された懸案事項や意見が議事録に記載されていることを説明。
 - 配布資料の訂正：
 - 第 1 回委員会で配布した資料について、統合後の二子小学校の学級数が「2 学級」となっていたのは誤りで、正しくは「7 学級」とであると訂正した。
- 意見等特になし

次第 4：協議（1）両校地域協議会の協議結果の確認

事前配布資料（資料 2-1、2-2、2-2 補足）に基づき、二子小学校および更木小学校の地域協議会の最終報告内容と要望事項の説明し、意見交換が行われた。

- 二子小学校区適正配置検討地域協議会の結論報告（資料 2-1）：
 - 委員会は 1 回開催。
 - 結論として『二子小学校を現校通り存続することを希望します』と報告。
 - 存続に向けて、地域としてこれまで以上に教育活動へ積極的に参画し、「地域学校協働活動の充実を図っていく」との方針。
 - 委員から、この報告は統合の是非を評価したものではないと補足あり。
- 更木小学校区適正配置検討地域協議会の結論報告（資料 2-2、資料 2-2 補足）：
 - 令和 7 年 3 月に協議会を設立し、全 6 回協議を重ねた。
 - 最終結論として『二子小学校との統合第一に検討すべき』と報告し、令和 8 年 1 月に適正配置検討委員会（事務局 北上市教育委員会）へ結果を提出。
 - 児童数が現在 27 名から令和 12 年度には 13 名まで減少し、複式学級による「集団学習の制限」や「人間関係が固定化」といった教育的デメリットを心配してのもの。
 - 住民・保護者・児童アンケートでは、統合に肯定的な意見が多数（住民約 66%、保護者約 69%、児童約 59%）であった。
 - 統合に向けた 12 項目の要望事項（スクールバス導入、通学路の安全確保、小中一貫校の検討など）が示された。
- 質疑応答：
 - **要望事項への対応について：**更木木小の 12 項目の要望について適正配置検討委員会で協議したか質問があった。市教委から、『地域の意向を尊重して、今年度から協議を進めていく』という大筋の方針であり、一つ一つの要望に個別回答はないと説明した。
 - **児童数推計について：**二子小学校の児童数は令和 12 年度に 149 名、令和 13 年度に 150 名の見込みであり、現状『複式学級の見込みはない』と補足した。
 - **地域の家族世帯流入について：**誘致企業の転勤者やアパートに住む家族世帯からの児童流入が『ゼロではない』という観察知を共有した。

協議（２）本委員会における協議事項の整理

- 事務局から、今後の委員会で協議する事項を整理した資料（資料 3-1、3-2）を説明し、委員に意見を求めた。
- 事務局からの提案：
 - 全 45 項目からなる協議候補事項リスト（資料 3-2）を提示。
 - 統合検討委員会で優先的に協議すべき事項として「●」、次いで協議すべき事項（統合決定後の準備段階で決めるべき項目であるものの関心の高いもの）として「▲」を付けた案を提案した。
- 委員からの意見と要望：
 - **協議事項の追加：**新規対応が必要となる「スクールバス等の通学支援」と、現状の施設では受け入れ困難な「学童保育」を協議事項（●）で進めるべきだと要望。
 - **スケジュール感：**『早く決められることは早く決定。8～9 月に固めないと来年 4 月統合は困難』と述べ、迅速な意思決定の必要性を強調。
 - **施設改修：**資料で「▲」とされた施設改修について、スクールバスの乗り入れ場所確保などは統合の前提条件であり、優先度を上げるべきと指摘。
 - **教育環境の充実：**子どもの安心のため、特別支援学級の充実と、高学年を対象とした正規の専科教員の配置の検討を要望。
 - **児童交流：**児童の不安を和らげるため、児童交流を計画より前倒しで実施することを提案。
 - **跡地利用：**児童に関する事項が最優先としつつも、更木小学校の施設跡地利用についても早期に検討を開始してほしいと要望。
 - **学童保育の具体策：**二子小の学童の定員が超過している状況と認識しており、次年度の利用希望アンケートを前倒しで実施し、需要を把握した上で、将来的には『小学校近くに両校児童が入れる学童施設を新設すべき』と主張。
 - **学童保育の運営方針：**担当部署の案として『当面は更木と二子の 2 つの学童を併用し、数年以内に二子学童へ集約する』方針であり、移動はタクシー等を活用する案が検討されていると説明した。これに対し、集約までの期間が不明確だと保護者が不安に思うとの懸念が示された。
- 他課との直接対話の要望：

- 委員から統合は地域全体の問題であるため、学童担当の「子育て支援課」やコミュニティスクール関係部署などから直接話を聞く機会を設けてほしいとの要望があった。
 - 事務局から『委員会の中で意見交換の枠を設けるなど所管課と調整する』と回答した。
 - 統合経験者からの意見聴取：
 - 過去に中学校統合を経験した校長など、統合経験者から話を聞く機会を設けるべきとの意見が出た。
 - 委員の要望を受け、地区の学校長など統合経験のある先生に意見交換の場への参加を事務局から打診するとした。意見交換は、意思決定への直接的な関与ではなく、経験に基づく一般的な質疑応答の場として設定する方向で調整する。
-

次第 5：その他

- 統合委員会だよりの発行：
 - 事務局から、保護者や地域住民へ委員会の活動内容を周知するための「統合委員会だより」の創刊を提案した。
 - 配布方法として、PTA 経由での配布、および自治協議会を通じた全戸配布が提案され、承認された。
 - 委員の所属団体の意見聴取のツールとしても活用を促した。
 - 広報紙下部の次回開催日程については次々回の開催日程も掲載することとした。
- 次回以降の開催日程：
 - 委員長より次回以降の日程が提案され、承認された。
 - 第 3 回委員会：2026 年 6 月 16 日（火）18:30 から、更木地区交流センターにて開催。
 - 第 4 回委員会：2026 年 6 月 30 日（火）18:30 から開催予定。